

日本母性看護学会ニュースレター

The Japan Academy of Maternity Nursing Newsletter No.8

第8回 日本母性看護学会学術集会報告

第8回 日本母性看護学会学術集会

会長 田邊 美智子 (福井大学)



会長講演

第8回日本母性看護学会学術集会は、平成18年6月17日(土)・18日(日)福井県あわら温泉「清風荘」にて開催し、多くの皆様のご協力とご支援により盛会裡に終了いたしました。学会のテーマは「母性看護の専門性と役割拡大」とし、理事長講演・会長講演・特別講演、交流集会、シンポジウム、一般演題発表に全国から150名のご参加がありました。

第1日目の前原澄子理事長(京都橘大学看護学部)講演では、「家族関係を育む、子育て期の親子への援助」をテーマに、京都橘大学看護実践異文化国際研究センターの設置を記念し開催された国際フォーラム「家族関係を育む、子育て期の親子への援助」の講演・報告を踏まえ、日本の文化に根付いた看護の実践方法および今後の研究の方向性について講演されました。

会長講演では、「母性看護の専門性と役割拡大」をテーマに、近年、看護基礎教育の4年制化が進む中で、昨今の看護基礎教育を含めた看護学教育のあり方を考えて行く上で、母性看護の概念と専門性、役割拡大について、改めて確認する時期に来ているのではないか、私達にどのようなことができるのかについて、母性看護の変遷および臨床看護における実践と研究から提言しました。

特別講演(対談)では、「脚本家からみた女性の生き方」をテーマに田渕久美子氏(脚本家)、遠藤俊子氏(山梨大学)による対談が行われました。対談に先立ち、田渕氏がこれまで手がけられたドラマのダイジェスト版が上映され、会場から拍手がわきあがりました。



特別講演(対談)

左 遠藤俊子氏 右 田渕久美子氏

脚本家らしい感性や表現による「女性の生き方」について、なごやかな雰囲気の中で対談が進められました。特にドラマの出産シーンや更年期の話の際には会場が大いに盛り上がりました。

1日目の懇親会后、2つの交流集会を行いました。一つは、笹下弘子氏（ささした助産所所長）と林 暁氏（報恩寺副住職）による「助産所を中心とした女性のためのからだづくり」で、日頃の疲れや緊張をほぐし、心身を整える整体法の実践が紹介され、講師の熱意に吸い込まれるように、時間延長するほどの熱気の中で、からだづくりについて学びました。

もう一方の、私どもが担当しました「専門職が行う出前講座」では、福井県下6か所で開催した出前形式の「中高年女性のための健康増進講座」の活動内容と評価をご紹介し、地域の更年期女性が理解しやすく行動変容につながるような支援のあり方について語り合い、参加者と共に考える貴重な機会となりました。参加された末原紀美代教授（大阪府立大学）は、最新の乳がん検診関連の啓蒙グッズを実物でご説明になり、参加された皆様と興味深く拝聴致しました。

第2日目の午後は「女性が輝いて生きるための看護支援」をテーマに、小松美穂子氏（茨城県立医療大学副学長）を座長に3人の演者によるシンポジウムが行われました。福井トシ子氏

（杏林大学医学部附属病院）による「周産期における糖尿病ケアの実践」では、助産師の適切な支援があれば、糖尿病であることが妊娠や分娩・育児になんの障害にもならないことを、事例を踏まえ報告されました。吉沢豊予子氏（東北大学医学部保健学科）は「女性の健康支援と女性看護学」について、1. 女性看護学、2. 女性看護学の基本的な考え方、3. 女性看護学の概念から生まれた女性への看護支援法 の3点から、女性看護学とどのように関係があるのか、今後、女性がさらに輝きながら QOL を高めていくには、これらの支援方法にどのように磨きをかけ

ればよいのか、女性看護学をどのように発展させていくべきについて提言されました。末原紀美代氏（大阪府立大学看護学部）による「思春期における「いのちの教育」その実践を通して」では、助産師として「いのちの教育」を思春期の子ども達に実践するとき何を大切に、彼ら彼女らに何を伝えるべきなのかを「生と性の教育活動」「デート・バイオレンスの予防に関する教育プログラムの開発」の実践活動から報告されました。

発表後、各シンポジストは末原氏作成によるカラフルなエイズキャンペーン時のコンドーム型衣装で登壇し、楽しくなごやかな雰囲気の中で討論が進められ、今後の展望がまとめられました。

2日間にわたって発表された一般演題では、「周産期ケア」「母性看護教育」「セクシュアリティ」「新生児・幼児の看護」など、9群計29演題を2会場に分かれて進行し、日頃の研究成果について、参加者との熱心な意見交換が行われました。

懇親会では福井の特産物に加え、ハーピストによる美しいハーブの音色をお楽しみいただきました。今回は、学会発足以来初の企画でしたが、日頃のお疲れを癒しリラックスされたでしょうか？「専門家として、女性や家族にどのような支援ができるのか」について、全国の方々とのお出会いの中で、お考えを深める機会となりましたことを念じ、不行き届きの点をご容赦戴きますようお願い申し上げます。



第9回 日本母性看護学会学術集会へのご案内

学術集会長 東京女子医科大学 久米美代子

開催日：平成19年6月16日（土）

場所：東京女子医科大学弥生記念講堂

第9回日本母性看護学会学術集会を東京女子医科大学で開催させていただきますことを大変光栄に存じます。

この度の学術集会のメインテーマを「先端医療とウーマンズヘルス」とさせていただきます。

今日、医学・看護学などでは、生命科学、または健康医学に関する研究は急速に進展しております。その進歩は、医療者や工学者との密接な協力体制のもとで得られることが多く、また、ヘルスインフォーマテックスという言葉で代表されるような健康情報科学の進歩によるところが大きいことは、ここにのべるまでもございません。

ウーマンズヘルスの将来の方向性としては、先端技術を取り組んだより賢明な方法が望まれます。さらに、今後のウーマンズヘルスは、より個人の特性に応じたテーラーメイド医療が必要であり、ガイドラインでは包括しえないさまざまな要因を加味することによって、よりきめ細やかで、個々に応じた治療やケアプログラム

で対応しなければならないと思っております。そして、当然その人のライフスタイルも見通したものでなければならないでしょう。そこで、特別講演として、先端医療とウーマンズヘルスの現状を伊関洋先生、太田博明先生にご講演いただきます。さらにシンポジウムでは「21世紀からのウーマンズヘルスへの提言」をテーマに、女性の心の問題を加茂登志子先生、遺伝子医療・カウンセリングからは斎藤加代子先生、自然医療からは川嶋朗先生、フェイシャルセラピストのかづきれいこ先生、看護の高橋真理先生からそれぞれの分野での提言をいただき、ご参加の皆様と活発な議論をし、共に考える場となることを期待しております。

6月の東京は少し暑いかもしれませんが、都の西北にあります東京女子医大の弥生記念講堂にご参集いただき、ウーマンズヘルスの未来を語る機会となれば幸いです。



東京女子医科大学



東京女子医科大学弥生記念講堂

事務局だより

1) 学会員管理に関するインターネットの導入について

日本母性看護学会では、会員管理とメールによる迅速な会員サービスに向けインターネットの利用を検討し、サーバー管理の委託業者を決定いたしました。委託業者はダブルワークス(所在地：大阪府堺市、代表取締役：難波美都里氏)です。これにより、学会誌等の発送先変更をご自身で行うこともできます。インターネットをご利用いただけない会員の皆さまは、これまで通り事務局にご連絡をいただき変更等の作業を行っていきます。詳細につきましては、サーバーの利用方法等が整い次第お知らせいたしますので、よろしくお願いたします。なお、サーバーのセキュリティは、現在の日本国内で可能な最も高い水準を備え、情報の暗号化により個人情報情報は守られます。

2) 平成18年度日本母性看護学会学術集会の開催について

「母性看護の専門性と役割拡大」をテーマに、平成18年6月17日(土)～18日(日)の二日間、福井県あわら温泉において第8回学術集会(田邊美智子会長)が開催されました。特別講演にはNHKの連ドラ“さくら”“ダイヤモンドの恋”でおなじみの田淵久美子氏(脚本家)を迎え、「脚本家から見た女性の生き方」をテーマに高校時代の同窓生に当たる遠藤俊子理事との対談形式でお話いただきました。懇親会では地元出身の新鋭ハーピストの演奏とハープのレクチャーを受けたり、講師と膝を突き合わせての交流集会では、体との付き合い方などを学びました。ワークショップや一般演題ではさまざまな議論が交わされ、活発な会となりました。

3) 第9回日本母性看護学会学術集会のご案内

平成19年6月16日(土)久米美代子会長(東京女子医科大学)のもと、第9回日本母性看護

学会学術集会が開催されます。メインテーマは「先端医療とウーマンズヘルス」です。日ごろ中々交流の機会のない会員の皆さまと有意義な時間を過ごしたいと思っております。皆さまのご参加をお待ちしております。

4) 第2回日本母性看護学会セミナー開催のお知らせ

平成19年3月24日(土)13:00から、キャンパスプラザ京都(京都市<JR京都駅ビル駐車場西側>)において、第2回日本母性看護セミナーを開催いたします。テーマは、前回の院内助産院を受けて、「周産期医療システムにおける連携と助産師の役割」です。詳細につきましては、後日皆さまにご案内いたします。産科をめぐる様々な話題に事欠かない今日、改めて連携のあり方、そして助産師の役割について皆さまのご意見をお待ちしております。

5) 住所変更等について

ご住所および所属先などが変更となりましたら、事務局までご連絡ください。

郵便物が宛先不明で戻ってくる場合があります。学会誌やその他のお知らせを確実にお届けするために、郵便物送付先など速やかに変更届けを事務局にご提出ください。

日本母性看護学会ホームページから住所変更などの連絡用紙をダウンロードすることができます。入会申込書も同様にダウンロードをご利用ください。

日本母性看護学会事務局(文責：竹)

発行人：前原澄子
発行日：2006年11月22日
編集担当者：成田 伸 遠藤俊子 村本淳子
二村良子 岡本美香子 跡上富美
発行所：日本母性看護学会
事務局：〒607-8175
京都市山科区大宅山田町34
京都橘大学看護学部内
TEL&FAX 075-574-4257,4261
URL <http://www.mcn.ac.jp/bosei/>